

# 予報第1号(5月)

大 防 第 1006 号  
平成 20 年 4 月 30 日

関係各位

大阪府病虫害防除所長

病虫害発生予察情報について

標記について次のとおり発表したの送付します。

病虫害発生予報第1号(5月)

平成 20 年 4 月 30 日  
大阪府病虫害防除所

| 農作物名 | 病虫害名         | 予想発生量 |
|------|--------------|-------|
| 水稲   | いもち病(苗いもち)   | △     |
|      | ばか苗病         | □     |
|      | もみ枯細菌病(苗腐敗症) | △     |
|      | イネミズゾウムシ     | △～□   |
| ぶどう  | べと病          | □     |
|      | 灰色かび病        | □     |
| みかん  | 黒点病          | □     |
|      | そうか病         | □     |
|      | ミカンハダニ       | □     |
| もも   | せん孔細菌病       | □     |

|                               |   |                         |
|-------------------------------|---|-------------------------|
| なす                            | 灰色かび病<br>すすかび病<br>うどんこ病<br>ミナミキイロアザミウマ              | □<br>△<br>△<br>○        |
| トマト                           | 灰色かび病<br>葉かび病                                       | □<br>□~○                |
| たまねぎ                          | べと病<br>ボトリチス葉枯れ症<br>灰色腐敗病<br>軟腐病<br>ネギアザミウマ         | □<br>□<br>□<br>□<br>○   |
| 野菜・花き類                        | アブラムシ類<br>ウイルス病<br>ミカンキイロアザミウマ<br>ハモグリバエ類<br>コナジラミ類 | □<br>□<br>□<br>□<br>□~○ |
| ▲:少ない △:やや少ない □:並 ○:やや多い ●:多い |   |                         |

気象予報(大阪管区气象台4月25日発表)

|        | 低い<br>(少ない) | 平年並 | 高い<br>(多い) |
|--------|-------------|-----|------------|
| 気温(確率) | 20          | 30  | 50         |
| 降水量    | 40          | 30  | 30         |
| 日照時間   | 30          | 30  | 40         |

A 水稻

1 いもち病(苗いもち)

予報内容 発生量 : やや少ない

予報の根拠

(1) 昨年度の穂いもち病の発生は、平年より少なかった。

- (2) 向こう1か月の天候は、降水量が平年より少ない。  
日照時間が平年並かやや多いと予想されている。

#### 防除上考慮すべき事項

- (1) 塩水選を確実にし、充実した種もみを選別する。  
(2) 種子消毒を徹底する。日陰で12～24時間風乾すると効果が高まる。  
(3) 種もみは薬液中で数回かくはんし、薬液の温度は10℃以下にならないようにする。

(メモ)

- ・低温、日照不足の時に発生しやすい。
- ・近年、他府県において MBI-D 剤耐性菌の発生が報告されている。

## 2 ばか苗病

予報内容 発生量 : 並

予報の根拠

- (1) 前年の発生は、平年並であった。

防除上考慮すべき事項

- (1) ばか苗病の発生したほ場で採種した種もみは使用しない。  
(2) 塩水選、種子消毒を徹底する。  
(3) 前年発生の多かったところでは、薬液への浸漬は高濃度短時間処理とするか、または薬剤の種類を変える。  
(4) 種もみは薬液中で数回かくはんし、薬液の温度は10℃以下にならないようにする。  
(5) 発病が認められた場合、株が枯死する前に抜き取ってほ場外に持ち出し処分する。  
(6) 種もみを温湯消毒する場合、処理温度、消毒時間等、適正な処理を心がける。

(メモ)

- ・苗代が高温であると発生が多くなる。
- ・昨年、一部の地域で温湯消毒した種もみで発生が少し見られた。

## 3 もみ枯細菌病(苗腐敗症)

予報内容 発生量 : やや少ない

予報の根拠

- (1) 前年の巡回調査では、発生はほとんど見られなかった。

防除上考慮すべき事項

- (1) 塩水選、種子消毒を徹底する。
  - (2) 種子消毒後、日陰で 12～24 時間風乾すると効果が高まる。
  - (3) 出芽時の高温は発病を助長するので、温度を 30℃以下にする。
  - (4) 深水や冠水状態になると発生が多くなるので、生育初期は浅水管理とする。
- (メモ)
- ・近年、オキシリニック剤耐性菌が増加している。

#### 4 イネミズゾウムシ

予報内容 発生量 : やや少ない～並

予報の根拠

- (1) 前年の発生は、少なかった。
- (2) 昨年度の1～2月の気温は平年並だった。越冬虫数は平年並と予想される。

防除上考慮すべき事項

- (1) 極端な早植は越冬世代成虫が集中し、被害が増大する。
- (2) 発生の多い所では、育苗箱にフィプロニル粒剤等を施用する。
- (3) 手植田では、苗の活着後に粒剤を施用する。
- (4) 移植後は浅水に管理し、健全な発根を促す。

(メモ)

- ・幼虫は根を食害し、成虫は葉をかすり状に食害する。
- ・中山間の水田で発生しやすい。

## B 果樹

### 1 ぶどう(デラウェア) ベと病

予報内容 発生量 : 並

予報の根拠

- (1) 4月下旬の巡回調査では、平年と同様に発生は見られなかった。

防除上考慮すべき事項

- (1) 発病を認めたら、被害葉を速やかに取り除くとともに、初期防除を徹底する。

(メモ)

- ・5月～10月にかけて、降雨が続き、気温が低めに経過すると発生が多い。

### 2 ぶどう(デラウェア) 灰色かび病

予報内容 発生量 : 並

#### 予報の根拠

(1)3月～4月下旬の巡回調査では、平年と同様に発生は見られなかった。

(2)孢子飛散量調査でも飛散量は平年並であった。

(メモ)

・ハウス栽培では換気やマルチを行い、湿度を下げる。

・灌水や薬剤散布は午前中に行い、夜間の湿度が上がらないようにする。

### 3 みかん 黒点病

予報内容 発生量 :並

#### 予報の根拠

(1)3月～4月下旬の巡回調査では、平年と同様に発生は見られなかった。

#### 防除上考慮すべき事項

(1)枯枝が多く残っているところでは、伝染が始まる5月下旬までに伝染源となる枯枝の除去に努める。

(2)伝染初期(5月下旬)の防除に重点を置く。

(メモ)

・この病気は、枯枝上から雨滴によって広がっていく。

### 4 みかん そうか病

予報内容 発生量 :並

#### 予報の根拠

(1)3月～4月下旬の巡回調査では、平年と同様に発生は見られなかった。

#### 防除上考慮すべき事項

(1)防除時期は落花期である。

### 5 みかん ミカンハダニ

予報内容 発生量 :並

#### 予報の根拠

(1)4月の巡回調査では、発生は平年並であった。

#### 防除上考慮すべき事項

(1)同一薬剤の連用を避ける。

### 5 もも 穿孔細菌病

予報内容 発生量 :並

#### 予報の根拠

(1)4月の巡回調査では、発生は平年どおり少なかった。

## 防除上考慮すべき事項

(1)強風で発生が助長される。

## C 野菜

### 1 灰色かび病

予報内容 発生量 :並(なす)、並(トマト)

寄主作物:なす、トマト

予報の根拠

(1)ハウスなすの4月下旬の巡回調査では、発生は平年並であった。

防除上考慮すべき事項

(1)多湿条件下で発生が多くなるので施設の換気を十分行う。

(2)茎葉が過繁茂にならないよう摘心・摘葉をこまめに行う。

(3)果実に付着した花卉からの感染が多いので花卉の除去に努める。

(4)同一薬剤の連用を避け、薬剤のローテーション散布を行う。

(メモ)

・灰色かび病は、多湿、日照不足で発生が多くなる。

### 2 すすかび病

予報内容 発生量 :やや少ない

寄主作物:なす

予報の根拠

(1)4月下旬の巡回調査では、発生はやや少なかった。

防除上考慮すべき事項

(1)施設栽培においては換気に努め、マルチを行う等、湿度を低く保つ。

(2)下～中位葉に発生しやすいので、発病を認めたら早めに摘葉する。

病葉はハウス外に持ち出し処分する。

(3)初期防除が重要となるので、発病を認めた場合には直ちに防除を行う。

(4)同一薬剤の連用を避け、薬剤のローテーション散布を行う。

### 3 うどんこ病

予報内容 発生量 :やや少ない

寄主作物:なす

予報の根拠

(1)ハウスなすの4月下旬の巡回調査では、発生はやや少なかった。

防除上考慮すべき事項

- (1)密植を避け、過繁茂にならないよう摘心・摘葉をこまめに行う。
- (2)発生初期の防除を徹底する。
- (3)同一薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。
- (4)苗床からの病害の持ち込みを防ぐため、育苗中に発病を認めた場合は防除を行う。

(メモ)

・うどんこ病は、日照不足、乾燥条件下で多発する。

#### 4 葉かび病

予報内容 発生量 :並～やや多い

寄主作物:トマト

予報の根拠

- (1)ハウストマトの4月下旬の巡回調査では、発生はやや多かった。
- (2)向こう1か月の天候は、平年に比べ日照は多く、降水量は少ないと予想されている。

防除上考慮すべき事項

- (1)施設栽培においては換気に努め、マルチを行う等、湿度を低く保つ。
- (2)下～中位葉に発生しやすいので、発病を認めたら早めに摘葉する。病葉はハウス外に持ち出し処分する。
- (3)初期防除が重要となるので、発病を認めた場合には直ちに防除を行う。
- (4)同一薬剤の連用を避け、薬剤のローテーション散布を行う。

#### 5 ベと病

予報内容 発生量 :並

寄主作物:たまねぎ

予報の根拠

- (1)4月上旬の巡回調査では、発生は平年並であった。

防除上考慮すべき事項

- (1)ほ場の排水を良くする。
- (2)り病株の除去に努める。
- (3)すでに発生を認めているほ場では、直ちに薬剤散布を行う。
- (4)り病株は翌年の感染源になるので、ほ場外に持ち出して処分する。

(メモ)

・べと病は多湿、日照不足で多発する。

## 6 ボトリチス葉枯れ症

予報内容 発生量 :並

寄主作物:たまねぎ

予報の根拠

(1)4月上旬の巡回調査では、平年と同様に発生は見られなかった。

防除上考慮すべき事項

- (1)高畝にするなど、ほ場の排水に努める。
- (2)収穫後の残さはすみやかに処分する。

## 7 灰色腐敗病

予報内容 発生量 :並

寄主作物:たまねぎ

予報の根拠

(1)4月上旬の巡回調査では、平年と同様に発生は見られなかった。

防除上考慮すべき事項

- (1)発病ほ場では早期に薬剤散布を行い、二次感染防止に努める。
  - (2)被害株は、すみやかにほ場外に持ち出し、処分する。
  - (3)収穫後の残さはすみやかに処分する。
- (メモ)
- ・灰色腐敗病は多湿、日照不足で多発する。
  - ・発病ほ場では、収穫後貯蔵中にも発生する恐れがある。

## 8 軟腐病

予報内容 発生量 :並

寄主作物:たまねぎ

予報の根拠

(1)4月上旬の巡回調査では、平年と同様に発生は見られなかった。

防除上考慮すべき事項

- (1)り病株は早めに除去し、薬剤を散布する。
- (メモ)
- ・軟腐病は高温多雨で多発する。

## 9 ミナミキイロアザミウマ

予報内容 発生量 :やや多い

寄主作物:なす

予報の根拠

(1)ハウスなすの4月下旬の巡回調査では、発生は多かった。

防除上考慮すべき事項

- (1)定植時には粒剤を施用する。
- (2)同一薬剤の連用を避けローテーション散布を行う。
- (3)葉の被害に注意し、少発生時の防除を徹底する。

10 ネギアザミウマ

予報内容 発生量 : やや多い

寄主作物: たまねぎ

予報の根拠

(1)4月上旬の巡回調査では、発生は多かった。

防除上考慮すべき事項

- (1)発生初期の防除に努める。
- (2)同一薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

D 野菜・花き類

1 アブラムシ類

予報内容 発生量 : 並

寄主作物: 野菜類、花き類

予報の根拠

(1)4月下旬の巡回調査では、ほ場での発生は平年並であった。

(2)黄色水盤トラップでの誘殺虫数はやや少なかった。

防除上考慮すべき事項

- (1)少発生時の防除を徹底する。
- (2)施設栽培では、開口部に寒冷しゃを被覆し、成虫の飛来を防止する。
- (3)同一薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

(メモ)

・アブラムシ類は多種類のウイルス病を媒介する。

2 ウイルス病

予報内容 発生量 : 並

寄主作物: 野菜類、花き類

予報の根拠

(1)アブラムシ類の発生量予報は並である。

防除上考慮すべき事項

- (1) 無病苗を確保する。
- (2) 防虫ネットの展張等によりアブラムシ類の飛来防止に努め、アブラムシ類の防除を徹底する。
- (3) ほ場周辺の除草に努める。
- (4) 発病株は、蔓延防止のため、抜き取りまたは株元から切り取って、ほ場外に持ち出し処分する。

### 3 ミカンキイロアザミウマ

予報内容 発生量 : 並

寄主作物: 野菜類、花き類

予報の根拠

- (1) ハウスなすの4月下旬の巡回調査では、発生はやや少なかった。
- (2) 平成13年以降毎年、5月後半～6月の粘着トラップ(露地きく)での誘殺虫数、および花たたき調査(ハウスなす)での捕獲虫数が多い。

防除上考慮すべき事項

- (1) 5月から発生が増えるので、少発生時の防除を徹底する。
- (2) 同一薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。
- (3) 被害葉や残さは、ほ場より持ち出し、ビニール袋に入れたり、穴を掘って埋めるなどして処分する。
- (4) ほ場周辺の除草に努める。

(メモ)

・ミカンキイロアザミウマやヒラズハナアザミウマは、作物を加害するだけでなくウイルス病(TSWV)を媒介する。

### 4 ハモグリバエ類

予報内容 発生量 : 並

寄主作物: 野菜類、花き類

予報の根拠

- (1) 4月下旬の巡回調査では、発生は平年並であった。

防除上考慮すべき事項

- (1) 発生初期の防除に努める。
- (2) 被害葉や残さは、ほ場より持ち出し、穴を掘って埋めるなどして処分する。
- (3) 施設では、開口部を寒冷しゃで被覆し、成虫の侵入を阻止する。
- (4) しゅんぎくや大阪しろな等では、収穫後に地表面をビニール被覆し、1

## 日間太陽

熱により土中の蛹を殺すこと(晴れの日1日ビニール1枚敷き)で、次作の被害を軽減できる。(4~10月の間可能。但し4、10月は効果がやや低い。)

(5)同一薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

(6)ほ場周辺の除草にも努める。

## 5 コナジラミ類

予報内容 発生量 :やや多い~並

寄主作物:野菜類、花き類

予報の根拠

(1)ハウスマトの4月下旬の巡回調査では、発生はほ場によってはやや多かった。

黄色粘着トラップの誘殺虫数もやや多かった。

防除上考慮すべき事項

(1)発生初期の防除に努める。

(2)被害葉や残さは、ほ場より持ち出し、穴を掘って埋めるなどして処分する。

(3)施設では、開口部を寒冷しゃで被覆し、成虫の侵入を阻止する。

(5)同一薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

(6)ほ場周辺の除草にも努める。

注1:防除薬剤等詳しいことについては、大阪府農作物病害虫防除指針を参照。

注2:ローテーション散布とは、害虫の薬剤抵抗性、病原菌の薬剤耐性の発達を防ぐため、

同一系統薬剤の連用を避け、異なる系統の薬剤(例えば、有機リン系と合成ピレスロイド

系など)を輪番に散布することである。

注3:薬剤の散布にあたっては、収穫前の制限使用日数、使用回数について特に注意する。

農作物の病害虫に関する情報は

●病害虫発生情報メールサービス

申込先 大阪府病害虫防除所メールサービス担当

TEL 072-958-6551(内線232)

<情報料無料>

年間約40件の病害虫情報を電子メールで送付します。

●おおさかアグリメール

申込先 大阪府環境農林水産総合研究所(本部)

企画調整部技術普及課

おおさかアグリメール受付担当

TEL 06-6972-7666

最新の農業情報をあなたの携帯電話にお届けします。

(受信に要する通信費は自己負担です。)

●Web版大阪府園芸植物病害虫図鑑

「ひと目でわかる花と野菜の病害虫」

<http://www.epcc.pref.osaka.jp/afr/zukan/index.html>

(社団法人大阪府植物防疫協会)